

日本マクロエンジニアリング学会第 39 回秋季研究大会開催報告

2020年11月8日(日)、コロナ禍で新しい事業モデルが模索されている折、日本マクロエンジニアリング学会第39回秋季研究大会はZoomミーティング方式で開催されました。未だ思わぬトラブルが複数生じますが、リモート会議方式による新しいツールの目途も立ち、発表内容とともに有意義な大会でした。

開会の挨拶

茂木会長より、コロナ禍においてこそ、「持続可能な未来を創造するマクロエンジニアリング」を掲げる本研究大会の意義は大きいと、開会の挨拶がございました。

発表1「資源回収ステーションにおけるリサイクル協力行動の特徴分析」劉曉玥；劉庭秀；大窪和明；小山内詩織（東北大学大学院国際文化研究科）

テレワーク、巣籠生活により、消費性向のみならず、廃棄物の質・量も変化し、廃棄物行政の負担が重くなっています。青森県の民営の資源回収ステーションにおける利用実態に基づき、回収品目別の利用者特性を分析され、また、利用者のアンケートに基づき、利用者行動のインセンティブに言及の上、資源回収ステーションと廃棄物行政と役割分担を提唱されました。回収率やコストなど、課題の多い廃棄物行政に対し、改善のきっかけになることが期待されます。

発表2「持続可能な開発目標達成に向けた環境教育の歴史的変遷と課題-ESDとSDGs教育を中心に」小山内詩織；劉庭秀；大窪和明；劉曉玥（東北大学大学院国際文化研究科）

小・中・高等学校におけるESDの実態として、環境教育指導資料にはESDの直接的記述がないために自信を持ってESDに当たれないことや、教育現場にSDGsが浸透していないことに触れ、実践例の収集と効果評価手法の必要性を訴えられました。本研究の発展を通じ、ESD、更にSDGsの普及や実現につながることを期待されます。

表彰式では、マクロ学会企画委員会の厳正な審査の結果、発表1の劉曉玥さん、発表2の小山内詩織さんに今後の一層の研究発展を期し、奨励賞を贈呈した。

日本マクロエンジニアリング学会 主催：日本マクロエンジニアリング学会（JAMES）
後援：日本工業大学
NPO マクロエンジニアリング研究機構（JMPEI）

第39回秋季研究大会

日本マクロエンジニアリング学会は「持続可能な未来を創造するマクロエンジニアリング」をキャッチフレーズに、「研究・発表・実装を通じ、社会に貢献する」としております。
本研究大会では、SDGsの認知度が高まり注目される中、農地流動化、資源リサイクル、可燃ごみの広域処理の環境アセス、およびESD(持続可能な開発のための教育)とSDGs教育を中心とした環境教育について、マクロエンジニアリング的取組をご提案いたしますので、質疑応答や総合討論を通じ、皆様とご一緒に考察したく存じます。一般の方、会員の皆様のご参加をお待ち申し上げます。

日 時 2020年11月8日(日) 15:00~17:30
場 所 Web会議
参 加 費 一般：0円(本学会準会員になれる特典あり)
本学会員：0円(学生は有効期限内の学生証を提示いただければ無料)
プログラム 一般公演 発表25分、質疑5分(発表者交代を含む)
14:55 開場、受付
15:00 開会あいさつ 日本マクロエンジニアリング学会 会長 茂木 創

開会の挨拶（茂木会長）

資源回収ステーションの利用意識

資源回収ステーションの利用理由

目的の都合で利用、暇なときに、親が利用、自治体の指定場所、自治体の回収費用、自治体の回収頻度、ポイント制度、地域の環境問題、不用品回収業者、自治体でリサイクルセンターへ型紙申請が必要、自治体の回収方法、自治体の回収頻度、自治体の回収費用、自治体の回収頻度、自治体の回収方法

・経済性インセンティブ敏感者：女性 20代、50代
・利便性インセンティブ敏感者：男性 30代、40代

・他の資源ごみ処理方法⇒自治体に排出

東北大学大学院国際文化研究科 劉曉玥、劉庭秀、大窪和明、小山内詩織
YCI-Laboratory, GSDS, GSDS, GSDS, Tohoku University

現在行っている研究における課題

研究対象：宮城県白石高等学校SDGs探究活動に携わる教員34名

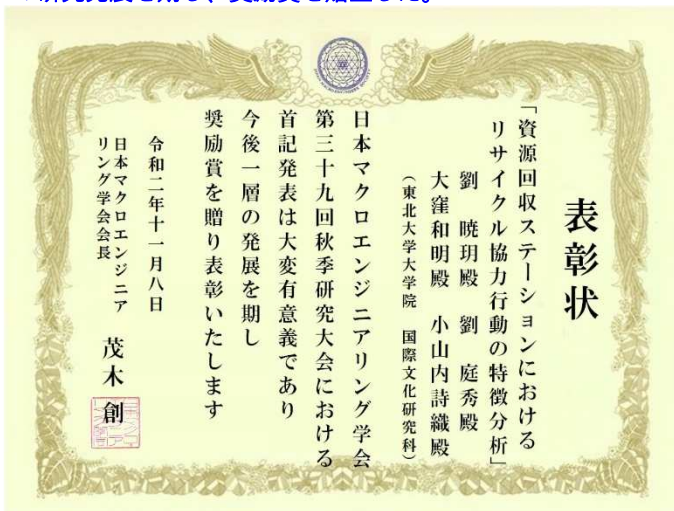
SDGsについて指導する以前から知っていたか

指導の際難しい点があった

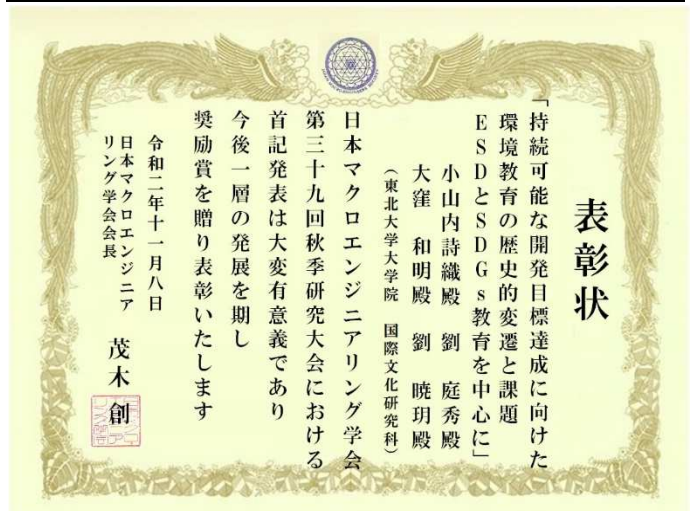
各3%

課題

・環境教育やESDの領域にとどまらず、教育現場にSDGs概念が浸透していないこと
・自信をもってSDGs教育指導に当たれていないという現状



奨励賞 劉曉玥殿他



奨励賞 小山内詩織殿他